



今回も多くの人が参加

に、「今日はお疲れさん。何か自分ができることはないかな」と、そういう気持ちを出してほしいです。言われた方はどんなにうれいでしょう。きつと喜んでくれるはず。です。

田子 日野町では、障害者施設についてうまく理解いただいて活動しています。地域の皆さんに快く受け入れていただいています。

障害者は、いろいろな経験をする機会が少ないので、町内の行事に参加できるよう頑張っています。町の駅伝大会にも出場し、オシドリ観察小屋の駐車場でも毎日のようにバザーを開いて、観察小屋へ

の道案内もしています。そのほか工作教室など、地域とのふれあいも行っています。まだまだ十分ではありませんが、こういった活動を通して社会の皆さんにご理解いただこうと考えています。

障害者が住みやすい社会はみんなが住みやすい社会。障害者も住みやすいまちづくりをすることから、誰もがつながついていけると感じています。山口 人権問題を解決しようという動きは多くの人の間に広がっていますが、同和対策は同和地区だけのために行われたものではなく、まち全体のレベルアップのためになっ

ていけることも理解していただきたいです。

今日話し合われた人権問題について、解決のために自分がどう関われるのか、住みよ



▼コーディネーター  
加持谷典範さん  
(鳥取県人権教育  
アドバイザー)

動を起こしていかなければいけない。そうしないと何も変わっていかないと思います。

▼シンポジウムのまとめ  
加持谷 ハンセン病に向きあったある人の言葉に、「自らが燃えなければどこにも光はない」というものがありま

す。これは非常に重い言葉、固い決意です。

人権について考え、解決していく中で、まず自分が立ち上がるのが大事です。また、社会意識を考えると、差別や偏見の意識はありますが、その裏側には、それを支える制度や仕組みがあることを見抜くことも大切です。その仕組みを変えていくことが、私たちの意識を変える一つの助けになるのだと信じています。

## 人権啓発講演会および第 32 回町人権・同和教育研究集会 参加者アンケート

【参加者数：198 人 アンケート回答者数：61 人】

- ①あなたの性別は … 男性 (46%)、女性 (54%)
- ②あなたの年齢は … 20代 (8%)、30代 (11.5%)、40代 (16%)、50代 (33%)、60代 (20%)、70代 (11.5%)
- ③講演の内容はどうでしたか … よく理解できた (74%)、まあまあ理解できた (26%)
- ④講演を聞いてどう感じましたか(複数回答あり) … 感動した (36%)、自分自身を見つめなおしたいと思った (36%)、自分の態度を変えようと思った (4%)、自分も何かをしようと思った (24%)
- ⑤シンポジウムの内容はどうでしたか … 良かった (42%)、まあまあだった (56%)、あまり良くなかった (2%)
- ⑥シンポジウムに参加してどう感じましたか(複数回答あり) … 身近な人権問題が良く理解できた (57%)、自分自身を見つめなおしたいと思った (26%)、自分の態度を変えようと思った (4%)、自分も何かをしようと思った (13%)
- ⑦その他の意見(自由記述) … ▼講演は明るい口調でわかりやすく、ユーモアたっぷりとてもよかった。▼もっと具体的な事例を用いて、何とかしなければと思えるような訴えかけがほしかった。▼身近にある差別、偏見と闘わないといけないと思った。▼シンポジウムの報告者からの生の声がとてもわかりやすかった。▼この集会に参加して、自分自身を見なおす良い機会になりました。▼どの項目についても、一口には終わらせられない問題。全員がもっと関心を深める必要があると思います。

## 全国解放保育研究集会参加報告

ひのっこ保育所保育士 音田真理子

昨年の9月23・24・25日の3日間、和歌山市で開かれた「全国解放保育研究集会」に参加しました。

この大会は、全国各地を会場に、保育関係者、保護者など毎年2000人以上が参加するとても大きな大会です。町からも、保育所職員と保護者の代表が毎年参加しています。今回は、私と黒坂保育所の保護者代表と参加しました。

第30回を迎えるこの大会は、「部落差別をはじめ、あらゆる差別の現実に学び、解放保育を創造しよう」という集会テーマをもとに、「保育所・幼稚園・地域・家庭すべてをジェンダーの視点で点検し、子どもの人権を尊重する保育を創造しよう」というサブテーマが掲げられていました。

大会第1日目は、基調提案をはじめ、記念行事として地元の保育所の子どもたちによる和太鼓演奏と踊りで華やかに始まりました。

第2日目は、13の分科会に分かれての全国からの取り組み報告があり、その報告をもとにして各会場で熱い討論が続きました。

その中で私は「子どもの意欲

と主体性を育てる保育環境」というテーマの分科会に参加しました。

1本目の報告は、大阪府の幼稚園からの報告で「今年度から3歳児の受け入れを始め、毎日の生活の流れや保育室の環境を見直しながら、1、2歳を家庭で過ごし、3歳児として受け入れることの難しさや大切さを改めて感じている」というものでした。

2本目は、鳥取県境港市の外江保育所からの報告でした。そこではA君という一人の男児に視点をあてて、3、4、5歳の成長事例、小学校、関係機関との連携についての報告でした。参加者からも、質問や各県の取り組みなど、活発な意見交換が行われました。

そこでの助言、指導の中で、「全国的に少子化が進んでいる中、地域の子どもが少なくなり、差別が見えにくくなっている現在、子どもたちを認めることで、自信を持ち、きちんとした言葉で相手に伝えることができる子どもたちを育てていかなければならない」という言葉が印象に残りました。また、「子どもは親だけでなく、周りの大人に出会うこと

で育っていく」という話から、子どもたちが地域の中で育つことの大切さを感じました。

第3日目は、解放保育に30年携わってこられた、関西大学名誉教授の鈴木祥蔵さんの「解放保育30年の歩みと私」という演題での記念講演が行われました。

その中で鈴木さんは、「同和」という言葉は《同胞一和》の略であり、人は皆平等であるという意味があること、子どもたちの育ちは、4つの指標と6つの原則に基づき、体と心が共に育つ環境が必要である」と話されました。

今、日野町の保育所では、職員で「環境保育」を勉強し、少しずつではありますが、日々の保育の見直しをしているところだ。子どもたちが遊びを選び、自主的に遊びが進められるよう、保育室をはじめ、まわりの環境をつくると共に、まわりで関わる人的環境の大切さを改めて感じました。

少子化が進んでいます、保育所、保護者、そして各関係機関や地域の皆さんとの交流を取り入れながら連携を大切にし、これからの保育を考えたいと思います。

## 2007年度「小地域座談会」

### 身の回りの人権問題について地域みんなで考える

町人権・同和教育推進協議会では、自分たちの身近な人権問題について地域で考え、理解を深めるための小地域座談会の取り組みを毎年行っています。

2007年度は、「暮らしの中の人権について話しませんか～あなたの人権は守られていますか～」をテーマに、町内の51自治会すべてで開かれることを目標に取り組んでいます（3月1日現在の開催自治会：26自治会）。

座談会では自治会長が班長となり、教育関係者や町職員などが各地域を訪れて、人権問題に関するビデオや資料を見たり、一人一人が日ごろから感じている人権課題などについて、ざっくばらんに話し合われました。

2007年度の小地域座談会で出された意見など（一部） … ▼思いやる心があれば差別は生まれないと思うが、実際それが難しい。思いがうまく伝わらないことが多い。▼思っていることははっきり言い、話し合うことが大切だと思う。▼人権についての教育は昔よりも進んでいるが、礼儀や秩序が崩壊しているのではないだろうか。▼インターネットの普及により、匿名で何でも簡単に書き込みができ、より多くの人の目に触れさせることができるので問題が大きい。誹謗中傷や根拠のないいいかげんな書き込みが増えている。そのようなものが差別や偏見につながっていくのではないか。▼高齢者にとって、自分を認めてもらえることが一番うれしいようだ。生きがいを持つことは健康の源である。▼考えること、続けることで何かが見えてくる。この学習を続けていきたい。